

我慢のできないふたなり彼女は
私に謝りながら何度も何度も中出しする



私が転校した先で仲良くなったのは

引っ込み思案なふたなりクラスメイト……？

イラスト：さざめき



基本CG6枚

本編50枚程度

おーいみんなー

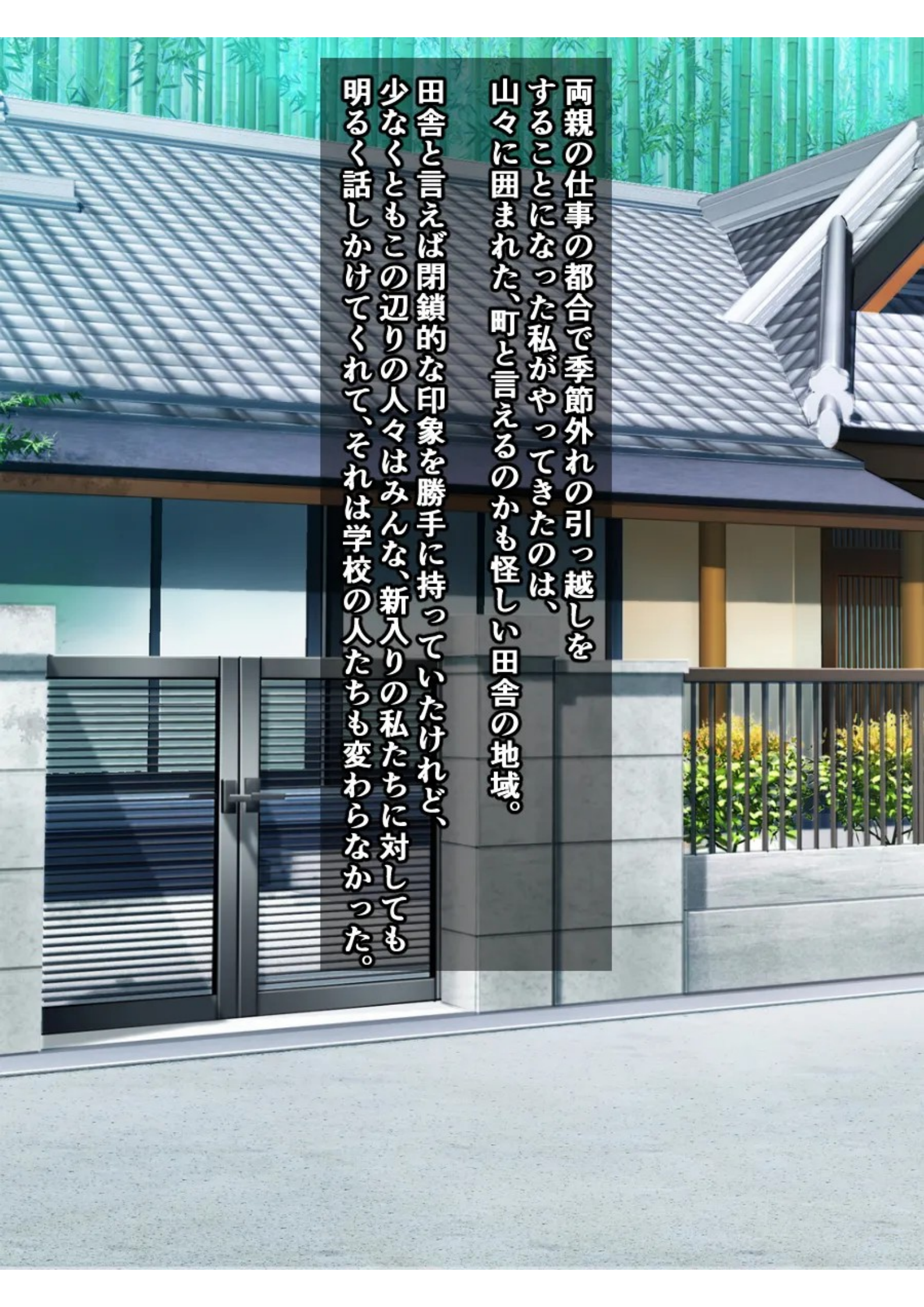
今日は転校生を紹介するぞー
入ってくれー

はい

ガラガラガラ

はじめまして、××県から来ました。
〇〇です

よろしくお願いします



両親の仕事の都合で季節外れの引っ越しを
することになった私がやってきたのは、
山々に囲まれた、町と言えるのかも怪しい田舎の地域。

田舎と言えば閉鎖的な印象を勝手に持っていたけれど、
少なくともこの辺りの人々はみんな、新入りの私たちに対しても
明るく話しかけてくれて、それは学校の人たちも変わらなかった。

ただ、一人を除いて。

あの一、外山さん…だよね？

外山ミコちゃん

？

へ？



は、はい…そうです

あの、私今日転校してきた〇〇って言うの
それで、ちょっとお願いしたいことがあるんだけど…

あのね、私ちょっとだけ体が弱いから、
保健室の場所を聞いておきなさいって言われてて

外山さん、保健委員だよね？
よかったら、案内とか…してもらってもいいかな？



わかりました、私なんかでよかったら

ありがとう



この子の名前は外山ミコちゃん。私の隣の席に座っている保健委員の女の子で、クラスの他の子たちに比べると、すごく引ッ込み思案なのが印象的だった。

この先が、保健室なので…もしなにかあったら、ここに行けば大丈夫です

そうなんだ、ありがとう
すっごく助かった



いいえ…お役に立てたならよかったです
私もよく、ここに来るので…

へえ、外山さんも体弱いのか？

そういうわけじゃ、ないんですけど……



そうなんだ？

ねえ、あのー、よかったら
ミコちゃんって呼んでもいい？

！ えっと…はい、大丈夫です

それに、私に敬語も使わなくていいよ、
私が案内してもらってる側なんだから

わ、わかつ…た

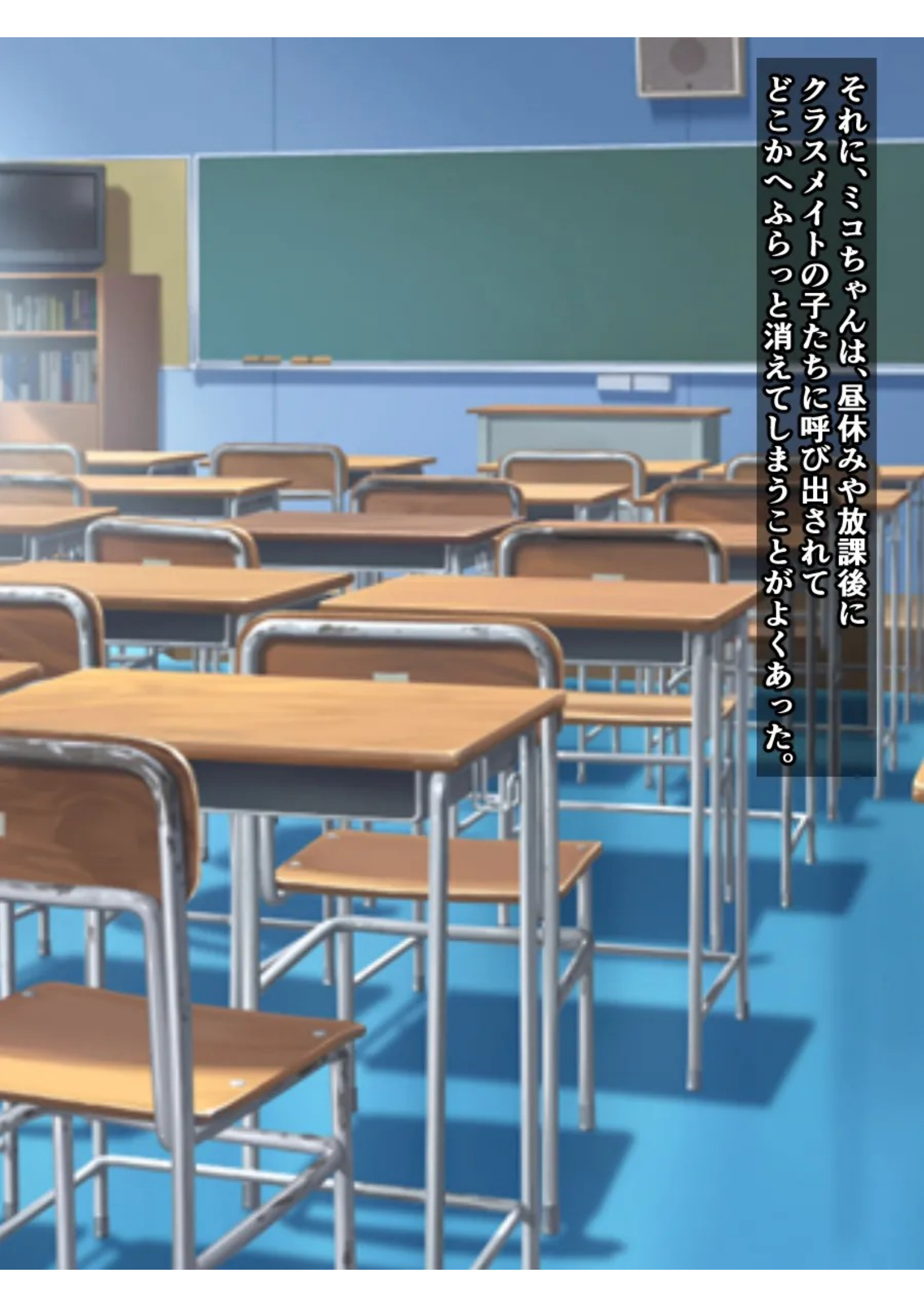
あはは



これをきっかけに、私とミコちゃんは
学校でも少しずつ話すようになり
私にとっては一番仲の良い友達になった。

だけど、なんていうか、そうして仲良くなればなるほど…
彼女に向けられる他のクラスメイトたちの視線が、
どうも普通とは違うような感じがして



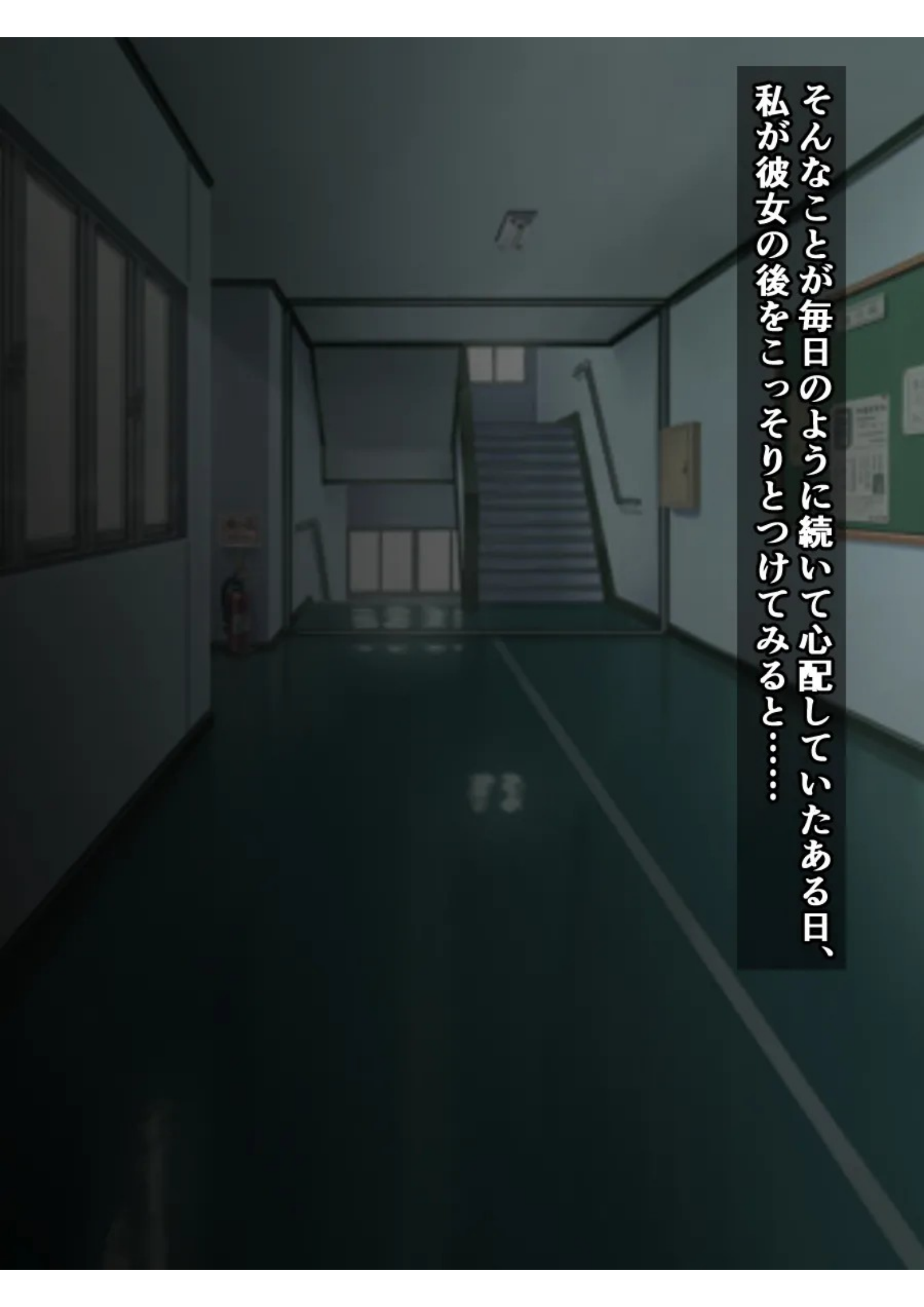


それに、ミコちゃんは、昼休みや放課後に
クラスメイトの子たちに呼び出されて
どこかへふらっと消えてしまうことがよくあった。

その後帰ってくる彼女はいつも顔を赤くして、
すごく疲れた様子だったから、



心配になって聞いてみたけど、なんでもないよと言うだけで、
私には何も話してくれない。

A dimly lit school hallway with a staircase in the background. The hallway has a dark green floor with a white line running down the center. On the left, there are several windows. On the right, there is a green bulletin board and a fire extinguisher. The lighting is low, creating a somber atmosphere.

そんなことが毎日のように続いて心配していたある日、
私が彼女の後をこっそりとつけてみると……

そこには、周りを囲んだクラスメイト達に服を脱がされ、

ハア

ハア

シク

シク

シク

あ...

あわっ...

そしてどういいうわけか生えていた、
自分のおちんちんを必死にこする
ミコちゃんの姿があった。

シク

わっ…

ほらシコー、しっかりこすりなよ〜？

じゃないとまた、前みたい
に授業中に勃起しちゃうよ(笑)

ムズ…

うっ…

うう

あたしら、あんたがちゃーんと
金玉の中身空っぽにするまでは
帰さないからね

う……ああ、もう許してええ……

シク

シク

シク

シク

シク

出したら許してやっから、
ちゃっちゃと射精しなつての

ほら出ーせ！ 出ーせ！ 出ーせ！！

お、きた？ なんかびくびくしてるし、
そろそろかな？？

う、ああ、見ないで……ああ、ダメエエ

わわっ

ハア

わわ

わっ

ハア

シク

シク

シク

シク

シクシク

シク

シク





ハア

うーわ、この量やっぱー
あんた一体どれだけ貯めてんだよ

ほんとほんと(笑)

ドゾッ…

ドゾッ

ハア

ハア

ハア

ま、いいや、これで授業中くらいは
我慢できるんでしょ?

あたしらもう行くから、
あと掃除ちゃんとしときなよー(笑)

ドゾッ…



アツクアツク

か、隠れなきゃ...

しかし、あいつもほんと
ご苦労さんって感じだよー(笑)

毎日毎日使い道のない精子あんだけ
金玉にため込んでさー

あれ全部出したら体重一キロくらい
減るんじゃない(笑)

言えてるー(笑)

ダッダッダッ
...

ミコちゃん、大丈夫!?

ミコ……ちゃん……

はあはあ……
あ、あれ……○○ちゃん……

ハア……

ハア……

なんで……

ムッ……

ハア……

ドロ……

トッ……

トッ……





グッ
グッ

あっ
...

グッ
グッ
...

ブル
ブル
...

ご、ごめんね…恥ずかしいところ…
見せちゃって……

わたし……こんな体だから、
もし、気持ち悪いって思ったら…
その遠慮なく言っ——

そんなことないよ！

え？

ハア

ハア

ハア

ゴゴゴ…

ゴゴゴ…



私は、ミコちゃんの友達なんだから…
おちんちんのことなんて気にしないで

……○○ちゃん

それよりごめんね、ミコちゃん
私、全然気づいてあげられなくて

…なんの、こと…？



ミコちゃんがいじめられてることだよ

あ、あれは…その、いじめなんかじゃなくて…
ふざけてるだけ…みたいなの……

え!?

それをいじめって言うんだよ!!
心配しないで!

これからは、私が守ってあげるから!



それから私は、休み時間になると真っ先にミコちゃんを誘って外へと連れ出し、そこでお弁当と一緒に食べるようになった。

ミコちゃん、ご飯行こ？

う、うん…

クラスの子たちは、放課後にも時々彼女を呼び出すことがあったから、それを防止するために、半ば無理やり教室から引っ張り出し、家まで送ってあげることにもした。



ミコちゃんは、あの子たちからの仕返しが怖いからなのか
何度もいじめじゃないと言っていたけれど、



本人にその自覚がないのなら
なおさら大変なことになる前に守ってあげなきゃ。
そう思って必死に彼女を守っていた。

その結果、彼女は毎日少しずつ顔色がよくなって
体育の時間も、前より明らかに活発に動けるようになっていた。

だけど、そんな生活がしばらく続いたある日……



昼休み

はあはあ……

どうしたの、ミコちゃん……
なんか顔赤いよ

う……うん、大丈夫……

大丈夫じゃないよ、
熱もあるみたいだし……
今日は、もう帰ろう？

私、家まで送っていくから



ねえ私、ミコちゃんを連れていくから
授業が始まったら先生に言っておいてくれる？

え？ あ、ああ。わかったよ
んじやあ頼むなー



カ
ラ
ガ
ラ
ガ
ラ

ミコちゃん大丈夫だからね！

おーい、ミコー。そろそろトイレ行くよー
ってあれ？ またミコいないじゃん

今日あたしらの日なのに

あー、また転校生が連れてったよ
ったく、お前等ミコの性処理、転校生に押し付けんなよなー

なんもやってない男子に言われる筋合いないしー

ていうか、そもそもあたしら別に押し付けてないよ？

ミコが自分で頼んだんじゃない？

えー、あいつが？？ ま、別に転校生が
きちんと毎日ヌいてやってんならいいけどさー

あいつ、ちゃんと処理してやんないと
大変なことになるし…

ミコちゃん、家着いたよ？
大丈夫？

私の部屋……そっち、だから

うん、わかった。じゃあお邪魔するね



ベッド今整えてあげるからね

スルル…

ザッ…

衣擦れの音？ そっか、ミコちゃん
着替えてるのかな…？



はい、用意でき——

ミコちゃん……………？

あれ、着替え、もしかしてなかった？

ハア

ハア

ハア

ハア

はあはあ、〇〇ちゃん、ごめんね

え……………？



女子部

女子部

ん

んぐっ、シコちゃん、なにして……

ごめんね、○○ちゃん……
私、もう限界なの……！

ムチッ

ハア

ハア

ハア

ムチッ

ムチッ

みんなにヘトヘトになるまで搾ってもらって、
毎日我慢してたんだけど

最近は、全然できなかったから……



ハア ハア

それってどういう……

ヌチュッ……

ごめんね……

ハア

ハア

ごめんね……

だ、だからね……もう
おちんちん搾りたくてたまんないの

ごめんね、○○ちゃん。ごめんね、使わせてね

ズチュ……

ッ

んん

んん

ズ

フリー♡フリー♡♡♡
あっああああ、気持ちいいよー♡

○○ちゃんの口の中あったかくてヌルヌルで
手でするよりもずっといいい♡♡♡

んぐっ、やめ、シコちゃん…くるし！

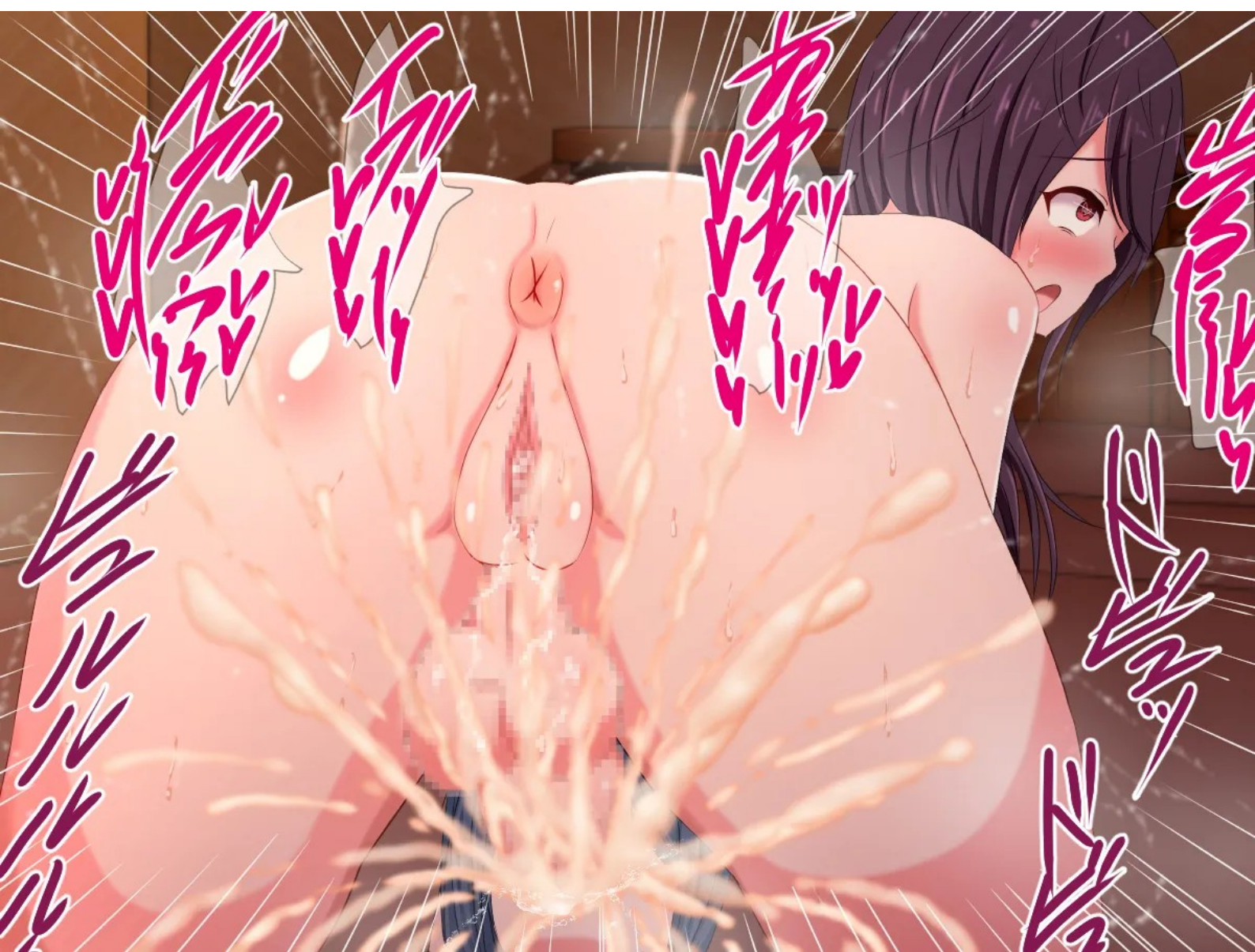
ズチュッ

ズチュッ

ズチュッ

ズチ





ごぼっ……ごぼっ……
……うぐっ、すすい……ニオイ

ッ……

ッ……

ッ……

ッ……

喉の奥に絡みついて息が……
でき……ない……

ごぼっ……

ッ……

ッ……



○○ちゃん、私ね、毎日十回以上射精しないと、
このオチンチン、大人しくできないの…

この一週間はずーっと○○ちゃんと一緒だったから……
毎日三回くらいしかできなくて…

だからね、まだまだ、何回でも出せるよ
いいよね？ ○○ちゃん

私、○○ちゃんに…出してもいいよね

ひっ…ま、待って…い、やつ、あああ…



だから出していいよね？
いっぱい、いっぱい〇〇ちゃんの中に

二人で赤ちゃん一杯作ろ♡

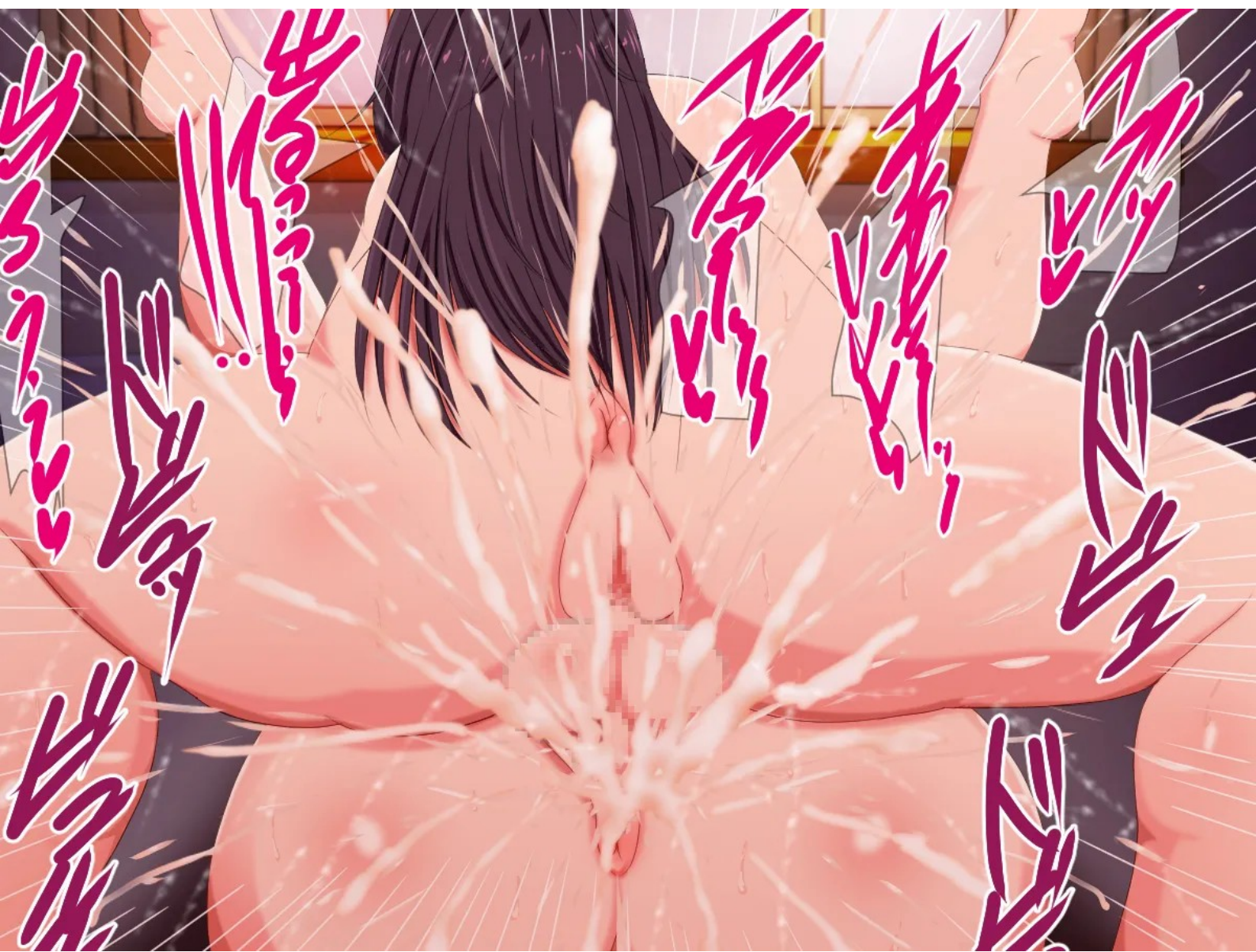
〇〇ちゃんと私の赤ちゃん、いっぱい！

あつ、あああ、もうダメー！！

出ちゃう、出ちゃうよ！！！！
初めての中出し、出るっ♡♡♡

あ、あああイっちゃうううう！！！！！！







あは、まだまだ……全然小さくならないや
もう一回しよ？ ね、○○ちゃん



あつ、あああああ♥♥♥
チンポおお、チンポしゅごい！！！！

あん

○○ちゃん♥

あん

ん

○○ちゃん♥

ん

あん

ん

○○ちゃん♥

あん

ん

あん

ん

○○ちゃん♥

あん

ん

ん

あは、また、また出るうう…
さつきより、もっといっぱい♥♥♥





そこから後のことは正直言っってよく覚えていません。

ミコちゃんは、その後も半分意識を失っている私に向かって
何度も何度も腰を振り、何度も何度も私の中に射精したようでした。



そうして、すべての精液を私の中に吐き終えろと、彼女は私におちんちんを挿入したまま、私を強く抱きしめて、眠ってしまい…夜遅くに帰ってきた彼女の両親によって発見されたのです。

私は彼女と彼女の両親に何度も何度も謝られ、夕飯をご馳走になりながら、こんなことになった理由を教えてもらいました。ミコちゃんのオチンチンは本人が言っていた通り、日に何度も射精をしないと我慢が効かなくなってしまうものだったのですが、

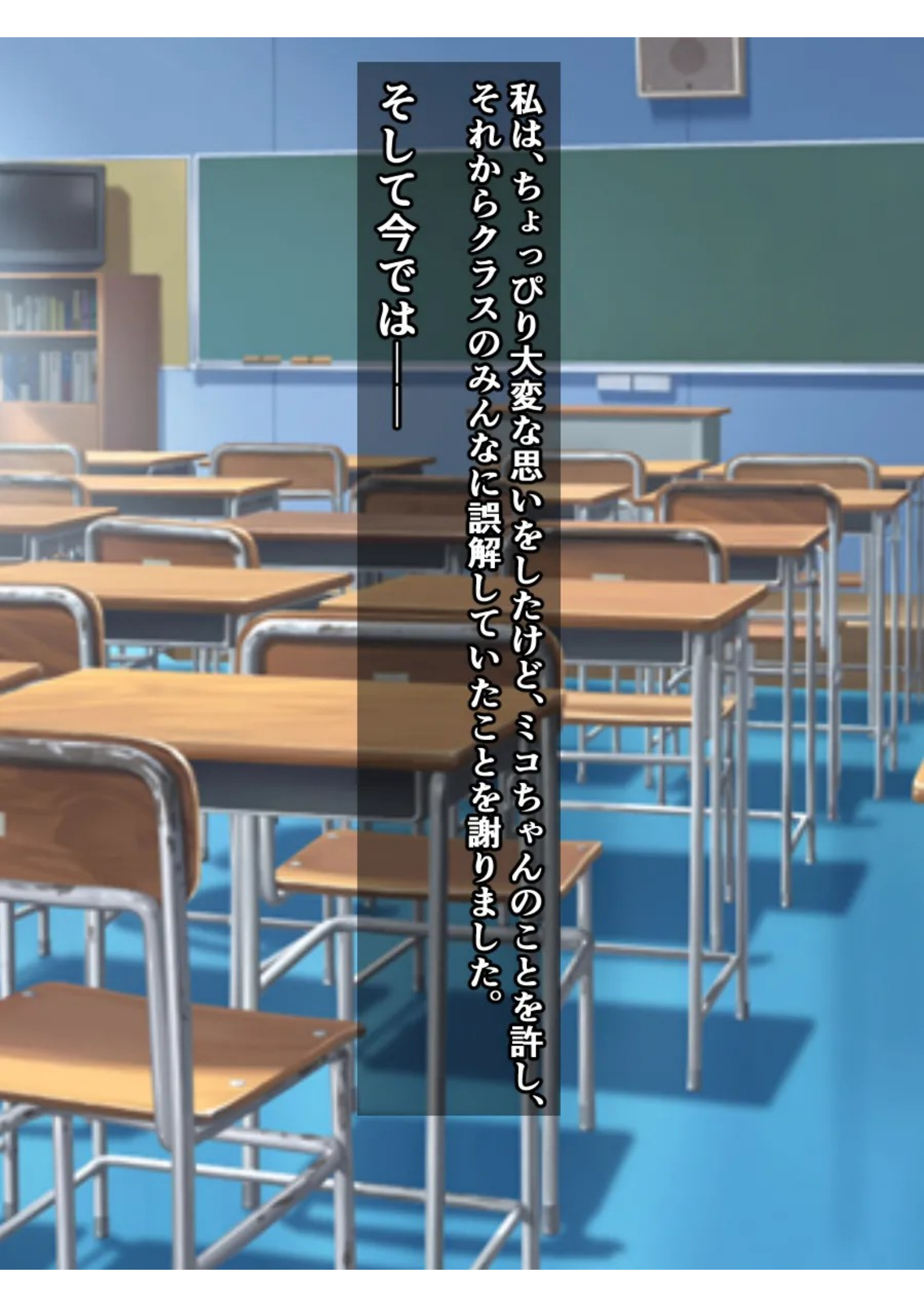
ごめんなさい!!
ごめんなさい!!

ミコちゃん一人では推奨射精量までオチンチンを刺激するのが難しいので、毎日クラスの子が持ち回りで、射精を見届けてあげていたそうです。



クラスの女の子たちが服を脱がせていたのも、
服が精液で汚れないようにするためで、
それ以外の意図はありませんでした。





私は、ちょっぴり大変な思いをしたけど、ミコちゃんのことを許し、それからクラスのみんなに誤解していたことを謝りました。

そして今では――

○○ちゃん、ほんとにまたするの……？
私、昨日もあんなにしたから、もう限界で……

ダメだよ、ミコちゃん。毎日いーっぱい射精しないと。
他の子にあんなことしたら、今度こそ本当に
逮捕されちゃうんだから



うう…

ほら、私の中使っていいから…ね？



そして今では、ミヨちゃんの専属搾精士さんとして
彼女のオチンチンを毎日いーっぱい搾っています♡

FIN